

時事新報定額

時事新報ハ一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價選送料廣告料ハ左ノ如シ

一 一月前金五十錢 ○三月前金一圓五十錢 ○六月前金三圓  
一 一年前金六圓

○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ本定價ノ外ニ二  
月間二十六錢ノ送附料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字	一日限	二日以上	七日以上	十五日以上	一月以上
自一行至十行	九錢	八錢	七錢	六錢	五錢
十一行至二十行	八錢	七錢	六錢	五錢	四錢
二十一行以上	七錢	六錢	五錢	四錢	三錢

時事新報

府縣會の地位

現行の府縣會規則に據れば今の府縣會は地方税と以て支辨すべき經費の豫算及び其徴收の方法と議定するものにして直接又府縣の政に參するものにあらずとされども既に其費目と議するに方り其事の起原性質等に論及せざれば豫算の用途徴集の方法を議定せ難き場合もあるが故に法律規則に觸れざる限り之と議するも妨げなれどことにして府縣の議事の施政の事に及すると常とする其上一方に於て理事者たる府縣知事も議會の意見を重んじて之を等閑視せざる等の事情があるが故に今の府縣會は間接に地方の政に參するの實ありと云ふも敢て不可なきもの、如し左れば國會も未だ開かず地方自治の制度も未だ實行を見ざる今日の日本に於て人民が政事に參するの路は唯府縣會にあるの即ち今の府縣會の日本人民の爲め恰も參政院試驗場にして今後政治改良の模範ともなるべきものなれば我輩は今の今日の法律上に於て有する權限の狭小なるにも拘らず今府縣會に向て多を望むものなり凡そ人民に參政の權を有するに於ては事を議する代議者と事を行ふ理事者と雙方の間に其地位材識の甚だ懸隔せざるを要するは勿論、代議者が在ての理事者をして我に重きを置かしむるの議量ある可らず之を府縣の事に云へば會の議員たるもの、其府縣一般の經濟向に就ては理事者に向て夫々の助言をもなし注文をもなすの地位に在るものなれば民間の利害得失に明かざるべきは申す迄もなく一と通りは當世文明の事情の大體にも通じ理事者の考察に對して意見を述べ之を贊否するの知見を備へ管内一般の施政に關しては萬事、理事者ある府縣知事の相輔對となりて冥々の間に重んじて我に置かしむるの品格を保たざる可からず蓋し人として我に重きを置かしむるには知識財產門地の三者と身に備ふること肝要にして之を其人の品格と稱す然るに今の地方より選ばれて議員となる者を見るに多くは其地土著の素封故老家に於て財產門地の二者は之を備へて身に不足を所なまど雖も惜哉此種の人々は近代教育の澤に浴すること淺き故に當世文明の事情に明ならず數多き人々の其中に議員の當選を官途の拜命と同一視して竊かに自から祝する者さへなればならぬ況して議場に出席し公衆の面前に於て事の利害を陳辯するなどは最も不得手の役前にして其極端の趣と評するに奇詭を用ふれば木偶を場列したるの觀なきにあらず是等の人々に望むに參政の模範を以てし理事者と相對して重きを認めめんとするが如きは到底覺束なきとなる可し左ればとて更らに眼と轉て其の故老の傍らに坐する所の一列を見れば是亦其だ頼母よからぬ連中にして東顧奔走本

官報

朕奈良縣設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

十一月十四日 内閣總理大臣伯爵伊藤博文

十一月十九日 內務大臣伯爵山縣有朋

○勅令第五十九號

奈良縣ヲ置ク

縣廳位置

大和國添上郡奈良

管轄

大和國一圓

○警察令第二十號

屋外ノ於テ公衆ノ集會ヲ催シ又ハ多衆列伍運動ヲ爲ス者ハ何等ノ名義ヲ以テスルコト拘ハラス會主又ハ幹事等ヲ定メ會同ノ場所通行スヘキ線路并ニ年月日ヲ詳記シ會同三日前ニ其會主又ハ幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出認可ヲ受ク可シ但官立公立學校ノ舉行ニ係ルモノハ又ハ婚式神佛儀式等従前ノ慣行ニ依ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ規程ニ違フ者ハ會主又ハ幹事等ハ會主幹事ヲ定メマサルトキハ會員ヲ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス又ハ五拾錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

明治廿年十一月十日 警視總監子爵嶋田通庸

○官吏發着 樺山海軍次官の一行は一昨八日米國ニヨリヨリ着○獨國在勤公使館書記官小松原英太郎及交際官試補戸田康泰ハ一昨八日歸朝せり○義に前橋始審裁判所詰命せられたる始審裁判所判事伊東昌春は今日出發赴任せり○東京砲兵工廠提理陸軍砲兵大佐黒田久孝は沖繩長崎廣島地方に向ひ一昨八日出發せり○福井縣知事石黒務同縣書記官本部泰は義に石川縣へ出張の處去月二十八日歸任○嶋根縣書記官中條恒は國幣中社熊野神社例祭に付き奉幣使として去る三日參向翌四日歸朝せり

○郵便及電信收入 本年十月中各郵便電信局及郵便局電信局に於て收入せる郵便電信料等の概算ハ郵便收入金二十萬八千二百二十一圓、電信收入金五萬七千四百三十四圓なり(通信)

(以上本年十一月十日官報)

來無一物ある野生活の人も甚だしい他の財産を借出して己の資格を以て議員の當選を試みて其望を達しざる者さへあらずと云へば此流の人々に因りて財産名望のある可なり非ず唯當世に要ある聊々の知見と辨才とを頼みにして議場を言論の場とするまでのまどあれば假令其言は巧にして時として道理に中なるも亦身の輕りと共に言も亦輕くして社會の信用薄ければ固より以て參政の模範とするに足らず何れも我輩の與する能はざる所のものあり右は事の兩端を形容したるも比にて實際は強ち斯くまでの甚ざらざるに至らざるもならんれども今の府縣會は兎に角此兩流の人物を以て多數を占め財産名望に不足なきものは今の世に處するの學術知見に乏しく少しく世情に通じて物の役に立何べもと思はる者、若し生憎く財産名望の身に備はるものなし斯る事此有様に去て人に重きとなし其相談相手とかりて參政の實を収むるなどは迎も思ひも寄らぬ次第にして今後幾年國會の開設あるも其實際効能を見るには覺束なき事ならん然らば則ち今府縣會をして其地位を高めしめんとするに如何にして可きやと云ふに今の素封故老が大に進んで文明の新知見を求むるか若しくは今の言論家相應の財産名望を得るか何れにても雙方の其一つが其缺典と補ひ得たる其時にありと云ふの外あるべきなり

○郵船會社花主を四方に求む 郵船會社は今後一層海運の事業を擴張し従前和船前船などに訴へまものは大抵汽船にて運搬せんと先頃新着の伏木丸れ如きも全く此目的にて購入せしが夫に付ても花主と四方に求む先て運輸の請負を爲さざる可らず迎既に香港新嘉坡等に輸出する三池石炭年々凡そ十八萬噸運搬は同社の一手に引受け向を此頃人紀州に派出して同地特産の蜜柑運送を請負ふるよし紀州蜜柑の年々東京に積出するもの七十萬個に下らずして現に昨年の如きも七十萬個以上を昇りたるが内四十五萬個は和船にて十五萬個は前船に托し汽船に積みたるもは僅かに一萬個前後なり然るに今年よりその運送を一手に引受けんとすに荷主問屋と排合中なりしが先頃彌々相談も絶まりて今月下旬か来月初旬より此運送を始むる事と汽船立武丸を以て専ら之に充つるよし今年蜜柑の運送豫算高は凡そ七十萬個程にて玄武丸一回の航海に滿船三萬個を積み得ると云へば都合廿四回の往復にて此運搬を終るの勘定ありと云ふ沖津汽船に自航が見える云々の但飲も文明世界の運搬には面白からず今後汽船にて一晝夜と出でざるに運搬来たらばしあひものも出来ずして本場蜜柑の香氣濃郁として都人の鼻を撲つる可し

○長野縣有志總代 同總代諸氏ハ一昨九日午前十時元老院に出頭せまに時任議員は服部書記生と打違れ面會し諸氏は夫れ一建白趣旨を詳述したるに時任氏には當院に建白書を取扱ふ議員五人ありて本宮も其一人あり云々と問答一時間餘に渉りたるよし

○罹災者へ義捐 此頃支那商人は黄河汎濫の罹災者を救助せん爲め義捐金と募集せんと盡力中あるが去る一日シヤアマンマセン會社は五百弗ホリデーウアイズ會社トランド會社も同じく五百弗レイズ會社の四百弗を寄附したと云ふ

○露國の鐵道費 露政府は其南西の鐵道を完成するの爲めに百萬ルーブルと使用すべき旨其掛りへ達したりといふ

○九州鐵道見込線路 工學士等井愛次郎氏は曩に九州鐵道線路を巡視して目撃したる所の概況を記去月卅一日發兌の工學會雜誌に掲載せり今之を轉載して讀者の一覽に供す

九州鐵道の起る所は豐前門司港なり此地は長門下ノ關と相對せ最も近況處は相距る大約七丁餘にして下ノ關は山陽鐵道の終る處あり此兩鐵道線路の相連續せざるは僅か此間の實に靴と履て穿くの感なき能はざるなり一線路 線路は豊前前敵門司港に起り西南に向ひ大里を経て小倉に至る線路此處に分岐し枝線は南向下曾根田田を経て京都郡行司に達す本線は西に向て進行し琴平丘を越えて筑前に入り遠賀郡黒崎原鹿井戸切を経て宗像郡赤間驛に至る是より又西南に向て東郷郡黒崎古賀櫻橋を経て福岡港に達す(最初は黒崎より鞍手郡木瀬瀬橋木瀬郡青柳を経て福岡に達する豫定ありしが植木青柳間頗る難所多し且巨額の工費を要するも猶且長道となす能はざるにより本文線路に變更せしめり)此處より南東に向ひ御笠郡龍崎を経て二日市に至る是より前通肥前入り基津郡田代を経て筑後川を渡り以後三浦郡久留米に達す(佐賀長崎に達する線路此の豫定なりしも久しう縮じ工事も遂に容易せられ下妻郡瀬高を経て又向ひ大牟田を過ぎ又向ひ大牟田を過ぎ倉山本郡木留田郡福崎山鹿植木を経て山鹿福崎間に邊春峠本文の線路に豫定せしめり)線路又分岐して一は

時達する線路此の豫定なりしも久しう縮じ工事も遂に容易せられ下妻郡瀬高を経て又向ひ大牟田を過ぎ又向ひ大牟田を過ぎ倉山本郡木留田郡福崎山鹿植木を経て山鹿福崎間に邊春峠本文の線路に豫定せしめり)線路又分岐して一は

時達する線路此の豫定なりしも久しう縮じ工事も遂に容易せられ下妻郡瀬高を経て又向ひ大牟田を過ぎ又向ひ大牟田を過ぎ倉山本郡木留田郡福崎山鹿植木を経て山鹿福崎間に邊春峠本文の線路に豫定せしめり)線路又分岐して一は

時達する線路此の豫定なりしも久しう縮じ工事も遂に容易せられ下妻郡瀬高を経て又向ひ大牟田を過ぎ又向ひ大牟田を過ぎ倉山本郡木留田郡福崎山鹿植木を経て山鹿福崎間に邊春峠本文の線路に豫定せしめり)線路又分岐して一は

改訂 女子部講義錄 第九號 (毎月)

成立 女子部講義錄 第十號 (毎月)

發行所 東京女子部講義錄發行所

代價 一圓

發行所 東京女子部講義錄發行所

東京學士會院講義廣告

一 東京學士會院講義廣告

一 東京學士會院講義廣告

一 東京學士會院講義廣告

本社抄造 紙質極廉價

本社抄造 紙質極廉價

本社抄造 紙質極廉價

刺妻千代儀久々

刺妻千代儀久々

刺妻千代儀久々